

授業改善推進プラン 算 数 [小学校第4～6学年]

昭島市立拝島第一小学校

学年等	項目	内 容
令和元年度 第4学年	学習に関する児童の実態・課題	○市の学力調査において、時間と時刻、口を使った式、数量関係、計算の復習では目標正答率を上回ることができた。特に、計算の復習(7の段の計算)と口を使った式(口を使った図の理解)は、目標正答率を7%上回ることができた。 ▲目標正答率を上回る項目があるものの、全国平均と比べると、すべての項目で10%程度下回っている。特に円と球・三角形では、全国平均から18%下回り大きな課題である。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・図形についての基礎的・基本的な知識及び技能とそれらを活用して問題を解決する力。
	具体的な授業改善の方策	・図形の学習の際には、図形を拡大して提示したり、個人で操作する作業したりすることで、視覚的・感覚的に理解させる。
	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	○2学期の市学力調査では、数量関係(折れ線グラフ)においては、他の領域に比べ目標値に近かった。 ▲目標値・全国平均正答率ともにすべてのカテゴリーで、10%程度下回っている。特に図形領域(垂直・並行と四角形)では、全国平均から約20%下回り大きな課題である。 ・図形の学習の際には、図形を拡大して提示したり、一人一人が実際のものを操作したりする活動を増やすことで、視覚的・感覚的に理解できるようにする。また、いろいろな物に触れる体験を蓄積することで、イメージする力や空間認知能力の向上を促していけると考える。
令和2年度 第5学年	学習に関する児童の実態・課題	○市学力調査の結果から、学習指導要領の数量関係の領域(正答率60.7%)が、他の領域と比べ目標値に近いことがわかる。評価の観点では、数量や図形についての知識・理解(正答率50.7%)が他と比べて高いことがわかる。 ▲市学力調査の結果では、図形の領域(正答率35.2%)が全国平均と比べて20%近く下回っている。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・図形についての基礎的・基本的な知識及び技能。 ・知識及び技能を活用して統合的・発展的に考える力。
	具体的な授業改善の方策	・具体物の操作等を通して、図形的な感覚を高められるようにする。 ・実態に応じて、解決の見通しをもたせたり、手立てを工夫したりして自力解決の時間を確保する。 ・可能な限りペア学習やグループ学習を行い、考えを論理的に説明して伝え合う機会を設ける。
	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	○到達度調査において、小数の仕組みの正答率が72%であり、資料の整理の正答率が72%と他の項目と比べて高かった。 ▲概数と平行・垂直の正答率はともに36%と他の項目と比べて低く、大きな課題である。
令和3年度 第6学年	学習に関する児童の実態・課題	○昨年度の到達度調査において、小数の仕組みの正答率が72%であり、資料の整理の正答率が72%と他の項目と比べて高かった。 ▲概数と平行・垂直の正答率はともに36%と他の項目と比べて低く、大きな課題である。学力調査から、も図形の問題の正答率が44%と低かった。
	教科で身に付けさせたい資質・能力	・図形についての基礎的・基本的な知識及び技能。 ・知識及び技能を活用して統合的・発展的に考える力。
	具体的な授業改善の方策	・具体物の操作等を通して、図形的な感覚を高められるようにする。 ・実態に応じて、解決の見通しをもたせたり、手立てを工夫したりして自力解決の時間を確保する。 ・可能な限りペア学習やグループ学習を行い、考えを論理的に説明して伝え合う機会を設ける。 ・解答の根拠を示すように指導していく。
	小学校6年間のまとめと中学校への引継事項	○2学期実施の到達度調査において、体積の正答率が8%、作図の正答率が19%上がった。 ▲学習後、時間が経った単元で到達度が下がる傾向にある。学習内容を統合して捉えたり、繰り返し復習したりする力を育む必要がある。